

■ [2023 建築とまちづくりセミナーin 彦根] 参加の感想

10月14日（土）・15日（日）の2日間、「建築とまちづくりセミナーin 彦根」に行ってきました。新型コロナウイルス感染症が発生して以降は人の集まるイベントには参加してこなかったのですが、今回の新建セミナーは久しぶりの参加に嬉しく思います。参加者は1日目は60数名（正確には「建まち」参照）とのこと。愛知支部からは甫立浩一さんと中森眞由美（妻）の3名で参加してきました。

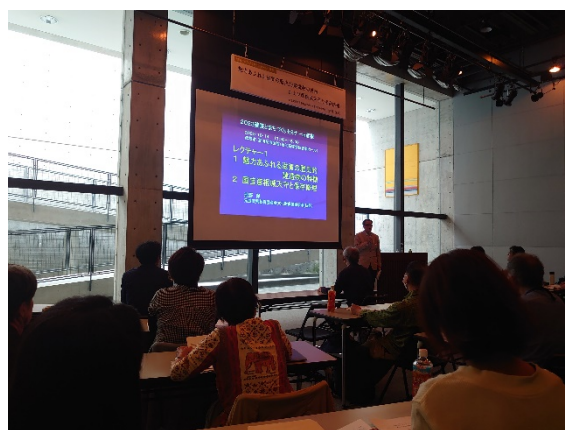
「魅力あふれる滋賀の歴史的建造物の特徴および彦根城天守と保存修理」

講師は池野保さん（滋賀支部会員／元滋賀県文化財保護課参事）です。始めに滋賀県の歴史的建造物について、その指定数の多さが全国一とのこと。時間の都合で説明がざっくりでしたが、改めて見所が多い県である事が分かりました。

次に個人的には大好物の城郭建築「国宝-彦根城」天守の平成の保存修理に関わったお話をして頂きました。彦根市製作のDVD上映は15分でしたが工事内容がわかりやすくまとめてありました。詳細が気になって、次回機会があれば追加でお願いしたいとも思いました。（愛知支部 中森 重雄）



▲セミナー会場の様子



▲講師の池野保さん

◆「建築とまちづくりセミナーin 彦根」に参加をして（甫立浩一）

天気予報が2日間は雨天と出ていましたが、初日の夜まで天気が持ち、翌日も朝には雨が上がり、もっていった傘は、あまり活躍せずに、たくさん歩いた2日間でした。中森夫妻と一緒に参加をして、行き帰りの道中も子育てなどの話をして、あっという間でした。

感想文の担当もみんなで分けて書くこととしました。

僕の担当は、レクチャー2の「銀座商店街のまちづくり」です。銀座商店街は、彦根城下町の南側に位置し、約1キロの中心市街地の中にあります。1960年までは、木造建築が密集しており、全国に先駆けて、都市計画街路整備と合わせた防災建築街区造成事業により、1961年ごろから1973年

までの期間に、約10億円の事業費をかけて、近代的なビル群へと生まれ変わりました。ところが、近年は、後継者不足や郊外への出店により、空き店舗及び空き住戸が増え、竣工後約60年が経ち、老朽化がかなり進んでいる現状で、2016年に外壁の崩落事故があり、彦根市と一緒に様々な検討に乗り出しているようです。

ほとんどが3階建て、1階・2階が店舗、2階・3階が共用住戸もあり、コンクリートでできた建物は、エクспанションジョイントなしで、隣の建物と密着している状況でした。

商店街の活性化に関わる多くの方々が、現状の問題点を調査して、どのように将来を考えて、2020年に「彦根銀座まちづくり懇談会」を設立して、商店街のみなさんだけではなく、専門家や大学生が集まり、様々なワークショップを開催し、問題解決を模索していました。

その後の座談会では、銀座商店街のギャラリーコジマの小島充子さん、彦根銀座街商商業協同組合副理事長の井上一さん、元滋賀県立大学大学教授の濱崎一志さんなどが、現在の状況と活用されている店舗や新しい動きなどを伝えてくれました。



▲銀座商店街（写真がなかったので、パンフレットより、抜粋しました）



▲狭い通路が店舗入口や裏への私道

結納屋店の2階に息子さん家族が住まう▶



▲濱崎先生（ギャラリーコジマ2階にて）



▲隣のビルの持ち出し梁でつながる建物



■ 「空き家と居住福祉」 ～居住福祉と生活資本の構築(157)

岡本 祥浩

10月1日にNHKで「空き家1000万戸の衝撃」が放映された。2018年現在の推計空き家数約850万戸が、まもなく1000万戸に達するという警鐘だ。空き家は、治安、防災、衛生、景観などを脅かす。しかしこの数字をそのまま受け取るわけにはいかない。この空き家には賃貸住宅(約430万戸)、売却住宅(約30万戸)、建築中(約9万戸)が含まれる。これら市場の空き家約470万戸は問題を生じさせるとは考えにくい。なんとなれば、問題の発生が商品価値を奪うからである。従って、注意しなければならない空き家は、統計上の空き家の約4割程度に減少する。とは言え、我々の居住環境に存在してほしくないことに変わりはない。

空き家問題で注目されるのは、その原因である。人口の高齢化、世帯規模の縮小から高齢者亡き後、相続されずに空き家の管理が不十分なままに放置される空き家が増えるのではないかという懸念がある。そこで「空き家特措法」(2012年)が制定され、空き家管理の徹底や自治体による空き家撤去が定められた。しかし、空き家発生の原因にメスを入れない限り、問題は解決しないだろう。

空き家は住む人が居なくなることで発生する。それは、人の問題と住宅の問題に関わる。人の問題は、相続人がいない、相続人が居ても生活圏が異なり維持管理できない、ということである。これらの場合には社会的に空き家を維持管理したり利用したりできる制度が望まれる。

他方の住宅の問題は空間として存在しており、簡単に無くせないのが重大である。住宅そのものと立地の問題に分かれる。40～50年前に建設された住宅は、狭小、設備不良、劣悪な住環境、老朽、耐震強度の不足などの問題を抱えている。その典型は、「狭小、5階建て、エレベーター・お風呂無し」である。更に経済成長のただなかに建てられた中心市街地から遠く離れた立地は、就労、買い物、教育、医療、福祉、友人・知人との付き合いなどを困難にする。いわゆる生活できない立地である。このように住宅の質と立地が改善されない限り、残された空き家は利用できない。

ストックにならないストックの存在は私たちを暗澹たる思いにさせるが、市街地内の空き家を市街地再生の「種」と考えられないだろうか。私たちの生活を支える市街地再生の絶好の機会到来だと考えられないだろうか。これまでは生活像を思い描こうにもその基盤や資源が無かった。大資本が次々と土地・建物を取得し、壮大な建物群を建設して「都市再生」が進められた。そこに一人ひとりにふさわしい暮らしは思い描けなかった。しかし、次々と生じる空き家を「種」として利用すれば、市街地の将来像が思い描けるのではないだろうか。将来像に合わせて、利活用できる空き家はそのまま利用し、不十分な住宅は適切な規模に改修したり建て直したりする。すべての建物が変わらなくとも、ある程度の建物が一人ひとりの生活にふさわしくなると、街の雰囲気が変わる。人口減少、高齢社会に超高層ビルが乱立する市街地の必要はない。ヒューマンスケールで一人ひとりの生活を支えられる中低層の市街地が似つかわしいと思う。市街地そのものが一人ひとりにふさわしい暮らしの基盤にするという認識のもとに市街地再生をめざして欲しい。

(中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員)

歴史探訪シリーズ ②⑧ 港区

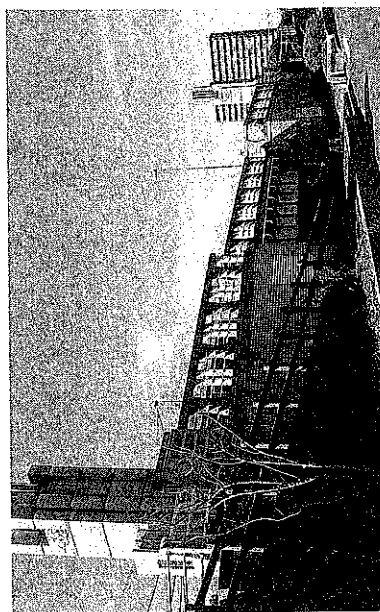
博覧会の存在を示す平和橋

現在の港区役所の前に、道路がやや盛り上がり、ここにかつての橋の遺構が見られます。

昭和12年3月15日から5月31日までの78日間、港区熱田前新田（現港区港葉・港栄）一帯で名古屋汎太平洋平和博覧会が開かれました。この博覧会は名古屋の人口が100万人を超えたこと、名古屋開港30周年にあたること、東洋一と言われた名古屋駅の新築が行われたことなど、これから名古屋の発展を内外に示すものとしてまこなわれました。この博覧会は総額300万円の経費をかけ、来場者総数は480万人を迎えたと云われていますが、この来場者のために、中川運河につながる運河に架けられたのがこの平和橋と呼ばれる橋でした。この橋

が架けられた時の運河は今は埋め立てられて見る事ができませんが、橋だけは残され当時の博覧会の遺構として貴重な存在となっています。

この橋は鉄筋コンクリートで造られ、橋の両端に大きなコンクリート製の親柱がそびえ、ややアーチ状の橋とともに特色あるデザインとなっています。今ではこの橋が、博覧会のために造られたものであることを知る人は少なくなっており、博覧会があったことさえも忘れられています。この橋が存在する限り、博覧会の存在を知ることができることになり、そのための貴重な遺構になっています。



平和橋

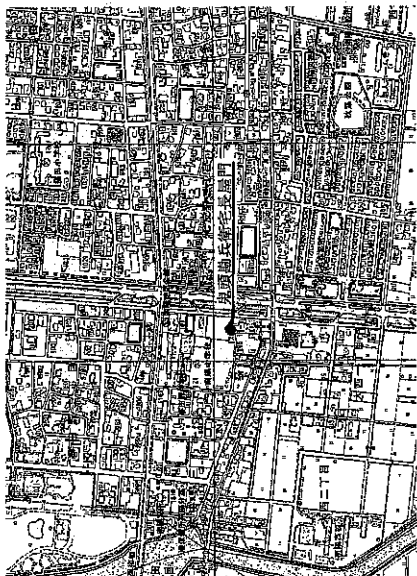
歴史探訪シリーズ ②⑨ 港区

新田開拓の功労者

鬼頭勘兵衛宅跡 長屋門

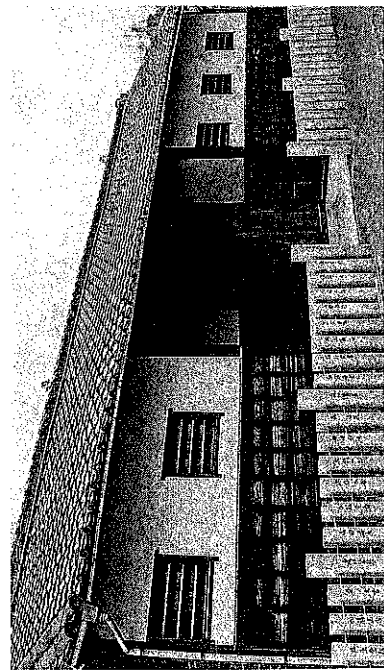
港区春田野にある南陽中学の南東の片隅に、鬼頭勘兵衛宅にあったと云われる長屋門が移築されています。鬼頭勘兵衛は江戸時代初期に八田村(現中村区・中川区)に移住し、寛永8年(1631)年中島新田(現中川区中島新町など)を5人の百姓と協力して開拓したのを始めとして、福田新田など新田開拓などを手掛け、明暦3年(1657)までに、27ヶ所の新田開拓をおこないました。

ここに残されている長屋門は1966年に鬼頭氏の屋敷地にあったものを10数m南に移築したものです。屋敷そのものは戦災でほとんどを焼失し今は残されていませんが、



長屋門だけは戦争の被害を受けず、今に残され保存されています。この長屋門は奥行き3間、桁行8間の長さを持ち、左側2・5間と右側3間の間に2・5間の開き戸をもつ規模の大きなもので江戸時代後期のものと思われます。失われた屋敷は1880年、天皇の行幸の際には、行在所(あんざいしょ)に指定され福田行在所と呼ばれていました。

鬼頭勘兵衛は多くの功績を残し、延宝4年(1676)に死去しましたが、自ら開いた中島新田内の空雲寺(中川区中島新田4丁目)に埋葬されています。



鬼頭勘兵衛宅跡長屋門

■ 新建愛知支部 2023年9月 支部幹事会だより

9月20日(水) 19:00~21:00 (オンライン)

リモート参加者/奥野、黒野、中森、福田、壬生、甫立

- (1) 建築とまちづくりセミナーin彦根が10/14~15で開催します。詳細は、ホームページで。
- (2) 11/25(土) 第34回新建全国大会がオンラインで開催します。議案への意見を募集します。
- (3) 大会議案とあわせて、10/4(水) 11/1(水) 夜に全国や支部への意見交換会を開催します。
- (4) 職人不足で困らない為に、共同事業化の組織化検討を進める事を決めて、源樹会と連携をします。
- (5) 新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化しています。
- (6) 「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。
- (7) 「建まち誌」への50周年祝賀広告を募集しています。支部でまとめて、本部へ連絡をします。

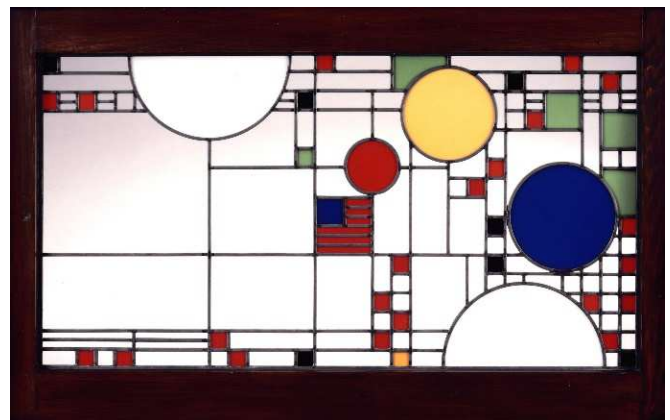
今後の幹事会は、11月15日(水) 12月20日(水) 2024年1月17日(水) 午後7時と決めました。

■ 展示会 『 フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築 』

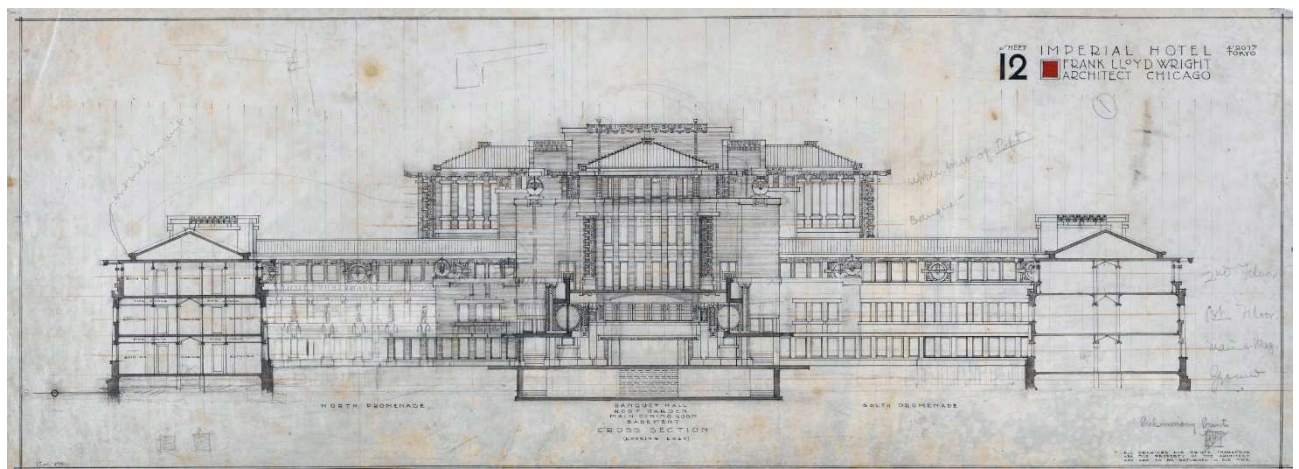
2023.10.21 - 2023.12.24

帝国ホテル二代日本館100周年

- ◇ 開催会場: 豊田市美術館
- ◇ 展示期間: 前期—10/21(土)~11/19(日)
後期—11/21(火)~12/24(日)
会期中、一部展示替えを行います。
月曜日休館
- ◇ 開館時間: 10:00~17:30(入館 17:00まで)
- ◇ 観覧料: 1400円



『クーンリー・プレイハウス幼稚園の窓ガラス』



帝国ホテル二代日本館 第2案 横断面図

※詳細は、豊田市美術館に問い合わせるか、または『フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築』展で、検索をお願いします。